

反畑 誠一(たんばた・せいいち)先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、開講オリエンテーションのページに記載

〈講義概要〉

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、後期セメスターの総括として、「デジタル・シュリンク」の現状分析と展望について講義を行った。

講義ではまず、コンテンツ産業の概要や現状、各コンテンツ業界の流通構造の特徴について詳細な資料を提示しながら説明した。また、他産業への波及効果も高く、成長の可能性のあるコンテンツ産業に対して各国が実施する振興施策について紹介し、特に、拡大・発展している韓国の海外展開施策の実態や成果を詳細に解説した。今後の持続的な成長のためには日本のコンテンツの価値を活かし、海外からの収益を獲得していくことが重要であることを示した。続いて、本講座の大きなテーマの一つである著作権の定義や歴史について、フェアユースやローマ条約、著作隣接権など重要なキーワードを示しながら詳しく説明した。

デジタル化が進むにつれ縮小傾向にあるコンテンツ市場の現状を示し、このデジタル・シュリンクから抜け出すためにはどうすればよいか、今後も引き続き学習を深めて欲しいと伝え、1年間の講義を締めくくった。



《受講生の感想》

●音楽と著作権について色々と考えさせられました。世の中ではどんどん伝達手段が増え便利になり、電子機器などの技術も進歩し音楽と著作権、主に提供する側とされる側で様々な問題が発生していることを知りました。これからは自ら興味関心を持ち、今回培った知識を活かしながら自分なりの見解を見出していくよう心掛けて過ごしていきたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

●デジタル化が進む今だからこそ、各コンテンツの利用や取り扱いに十分に注意し、ルールを守っていくべきだと感じました。今日で全 15 回の講義が終了しましたが、15 回全ての授業を受けて、様々な先生方の貴重なお話を聞き、今、私たちの触れている映像や音楽を取り巻く課題は山積みなのだなと知りました。その度に疑問も生まれましたが、毎回質問用紙に質問を書かせていただいて、また先生方から返答をいただき、本当にありがたかったです。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●授業の中で本当に様々な分野の先生からお話を聞き、その中で思ったのが伝統芸能があり、クールジャパンがあり、素晴らしい音楽があり、改めて日本の良い所、“カッコいい日本”をたくさん知ったし、外国にもっと日本の良い所を知ってほしいと思った。しかし問題点もあり、日本の良い所を守り、伸ばしていくためには、今の仕組みや制度を見直さなければならないと思う。私が一番印象に残ったのは、TPP 参加の問題で、我々日本人はもっと TPP の知財の問題に注目すべきであると強く感じた。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●本日の講義を通してこれまで学んできたことを整理することができました。その中でグローバルな視点がすごく重要だと感じました。同時に、いかに著作権が優れた作品をつくり、対価を得られるかも、デジタル化の進む今求められていると感じました。最も注意する必要があることは、日本における最適な知財のルールを考えなければならないことです。ダウンロード違法化、刑罰化についても、今後更に学びを深めていきたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●私にとってこの授業は大学の授業の中でもっとも刺激を受けた授業でした。この講義を取っていなければ著作権について詳しく知ることもできず、日本のコンテンツ産業の可能性について考えることもなかったと思います。コンテンツをただ楽しむだけでビジネスについて考えなかったと思うので貴重な時間となりました。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

●日常生活や日頃の授業では絶対に関わりを持つことができないような素晴らしい先生方による講義を受けることができ、毎週たくさんの刺激を受けると同時に大変楽しく学習することができた。著作権に関わる問題はどの業界でも発生し、社会的にみても大きな問題であると感じた。「フリー」は「著作権」と共存できるか否かというテーマでの講義はとても印象に残っているし、考えさせられた。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

●産業を発展させるも衰退（よい創造が生まれなくなる）させるも受け手次第だと思いました。この授業を受講して、ただコンテンツを受け取るという面だけで見るのではなく、業界全体など様々な面で考えることができるようになりました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●日本のコンテンツ産業は経済波及効果が大きくまだまだ伸びしろのある有望な産業であることが分かった。海外からも高く評価されているコンテンツが数多く存在しているのに、それを活かして海外からの収益を獲得することができていない現状があり、その点は非常に残念だと思う。コンテンツ産業振興施策も積極的に行われており、日本もそういった点に力を入れていくべきではないかと思った。

立命館大学・法学部・3 回生

●今日本のコンテンツは生き残るためにデジタル化への対応や海外展開が必要になるように思います。また、韓国のコンテンツ産業への手厚い支援が印象に残りました。やはり国策としてコンテンツ産業に力を入れていることを改めて感じます。15 回の授業を通して、コンテンツや知的財産についての現状や課題といったことを理解でき、特に著作権について今後も注視していきたいです。

立命館大学・映像学部・3 回生